

市民連合

山梨 ぐんないニュース

第 33 号

2026 年 5 月発行

発行 市民連合 ぐんない

共同代表 知見邦彦

同 森山正男

富士吉田 道の駅交差点で 40 名スタンディング 平和憲法まもれ 無法者トランプ 脅迫・侵略 NO

4月8日、「平和憲法を守るための緊急アクション」が行われ、国会議事堂を3万人が取り囲み、全国137か所で呼応する取り組みが行われた。富士吉田市の道の駅の交差点で40名がスタンディングで声をはりあげた。

SNSの威力で箱根からの参加者や「街頭で政治的なことをやるのは初めて」という方、地元の九条の会の方々などの参加でもりあがった。

主催者が「何人集まってくれるか心配してましたが、こんなにも参加されて勇気づけられました」と「東京から移住してきて、SNSで仲間ができて、呼びかけ始めたら人が集まり始めたんです」などと話された。



「改憲 時が来た 自衛隊を軍に 条文作成 起草委 改憲 1年でめど」



自民党は4月11日、定期党大会を開き、高市首相が演説し、憲法改正について「発議にめどが立ったといえる状態で来年の党大会を迎えたい」と表明。今後1年で国会発議に道筋をつけたいとの考えを明らかにした。「歴史という書物の新たなページをめくるべきかどうか。国民に堂々と問おうではないか」と述べ改憲の是非を問う国民投票の実現に意欲を示した。



4/8 国会を囲む3万人

「戦争反対！」 「9条守れ」



4月19日、富士吉田道の駅交差点で2回目の38人スタンディング開催。



4月20日、10時、大月バイパス19人 都留高横の交差点でスタンディング



経済的利益と効率が優先され「生産性」有無によって

差別される社会 いまだに はびこる“優生思想”を考える

3/8 ギャラリーカフェ “カナー” 久保田公子さん報告（1）

「LGBT カップルは子供を作らない、生産性が低いから、この人たちに税金を使うのは無駄」との国会発言、やまゆり園事件等にみられる障害者差別など優生思想がいまだにはびこっている。

優生思想とは、成立の背景は？

旧優生保護法は1948年、加藤シズエ衆議院議員ら社会党議員3人の議員立法で成立、目的の一つは、「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止すること」だった。本人の同意なく、不妊手術を可能とした。25千件を上回る強制手術が行われた。強制手術が憲法違反にならない理由として「公益という利益」が言われた。背景に、戦後の引揚者の急増、ベビーブームの到来、国の復興を優先させる風潮が強かった。高校の教科書に、同法について「社会から悪い遺伝性の病気を持った人を除き健康で明るい社会をつくるため・・・、悪い遺伝性の病気がある場合、不良な子孫が生まれないように、優生手術を受けてから結婚」と述べられていた。

変化は1970年代から

1972年、経済的理由による中絶を規制する法案に「産むか産まないかを自分で決められなくなる」と女性団体が反対、障害者らが、医師や家族の反対を押し切って子を産み育てるようになっていった。

強制不妊手術に対する賠償は、80年代でドイツ、90年代にスウェーデンで保障が行われ、日本では、2024年にやっと当事者から補償の訴えにより、最高裁で「旧法は立法時点で違憲だった」との判決が出された。不妊手術を強いたこと、訴訟が提起されるまで問題を放置したこと、最高裁判決が出るまで様子見を続け、被害者に「三重の苦しみ」を背負わせた。岸田首相は被害者に対し謝罪した。

被害者救済の現状

2024年の最高裁判決以降、被害者救済は進んでいない。戦後最大の人権侵害とされる旧優生保護法の被害は、強制不妊と中絶をあわせ8万4千件に上る。2025年5月時点で申請数は1200件ほどにとどまる。「差別の時代を生きた被害者や家族への通知、国の誤りについての説明、各自治体の異なる対応」などが壁になり、自力で申請窓口にたどり着けない。

排除の危うさは今も

障害者19人が殺害された「やまゆり園事件」の犯人を賛美するSNSの声、人間の「価値づけ」意識からの安楽死殺人、強まる排外主義、能力主義、不寛容さ等は優生思想に通じるのではないか。「“厄介なこと、不都合な事実”に目を背けない心を持ち続ける大切さ」を思う。